

第20回（平成30年度第1回）
セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

《会 議 次 第》

日時：平成30年4月10日（火） 15:00～16:00

場所：市役所3階 303会議室

1. 開 会

2. 報告事項

（1）平成30年度の主なスケジュールについて

3. 協議事項

（1）平成29年度の取り組み実績及び平成30年度取り組み方針（案）について

（2）再認証取得に向けた本審査について

4. その他

5. 閉 会

平成29年度取り組み実績及び平成30年度取り組み方針

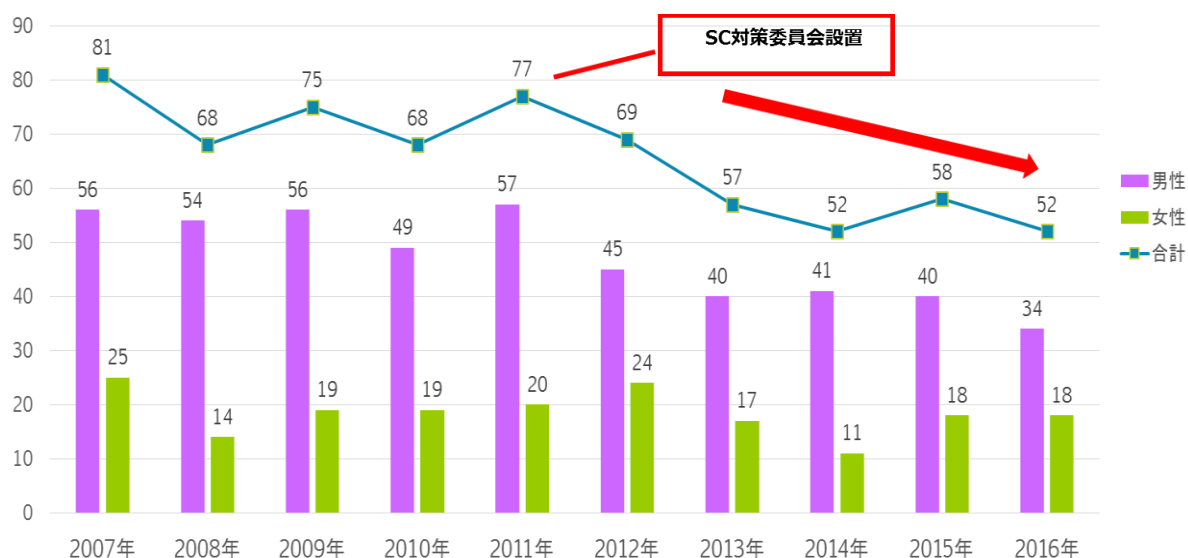
自殺予防対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
自殺・うつ病の予防	7-①	ゲートキーパーの養成
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化
	7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施
	7-④	民間団体と協働した相談の実施
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援

【平成29年度取り組み実績】

ア. 成果〈数値で表せるもの〉

久留米市の自殺者数の推移（2007年～2016年）出典：人口動態統計



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

- ・「かかりつけ医と精神科医の連携システム」としての認知が広がっている。
- ・地域におけるゲートキーパーの認知が深まった。市民団体の活動も継続しており、ゲートキーパー啓発冊子の作成や講演会の開催など、自主的な活動が広がっている。
- ・街頭啓発キャンペーンの協力者の拡大
- ・様々な相談窓口の開設等による相談体制の強化



ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

- ・心の悩みや不安を抱えている市民の身近な相談窓口として岩田屋久留米店にて、臨床心理士等が対応する相談窓口を開設。2017年度より自殺者の多い中高年男性も利用しやすいよう、久留米市立中央図書館にも窓口を増設し、相談を受け付けたことにより、男性利用者の増加につながった。
- ・生活自立支援センターにおいて、自殺企図、希死念慮の相談者の個別の相談に応じ、医療や福祉の関係機関と連携し、不安を和らげるとともに、就労支援等の関係機関とも連携し、相談者の環境改善を図った。



エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

- ・あらゆる機会を捉え市民の身近な場所に出向き出前講座などを通して、ゲートキーパーの啓発を図った。
- ・対策委員会での意見を基に啓発のためのしおりを作成し、その配布等について、書店との調整を図った。



オ. 分野横断的に行っていること

- ・労政課等、雇用弱者と接する機会の多い職員に対し、ゲートキーパー研修を実施
- ・司法書士会やハローワークと連携した相談会の開催、民間団体への相談窓口の委託
- ・市立図書館や大学図書館などにおける自殺対策啓発パネル展示の実施
- ・セーフコミュニティ自殺予防対策委員会及び自殺対策連絡協議会構成団体と協働した啓発活動の実施。
- ・生活自立支援センターの相談者は、複数の課題を抱えていることが多く、様々な関係機関と連携し、分野横断的な対応を図っている。



カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

- ・中高年男性の自殺者減少への取り組み
- ・正しい知識を持つ市民の増加、ゲートキーパーの認知度上昇
- ・適切な医療や支援を受けられる体制の整備
- ・地域の相談体制の更なる充実

【平成30年度取り組み方針】

具体的施策		30年度取り組み方針
7-①	ゲートキーパーの養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパーの浸透を図るため、より一層の対象者拡大と地域への継続した働きかけを行う。 ・こころの相談カフェを開催している岩田屋職員へのゲートキーパー研修の実施を検討
7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。 ・研修会の開催にあたっては、医師会事業との連携を行いながら、更なる連携を図っていく。
7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、各団体や委員と連携し、普及啓発活動に取り組む。 ・セーフコミュニティ自殺予防対策委員会で作成したしおりの効果的な活用
7-④	民間団体と協働した相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワーク相談会 <ul style="list-style-type: none"> ・特に自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会の実施を継続していく。 ○こころの相談カフェ <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度も引き続き、岩田屋久留米店、中央図書館での相談窓口を継続する。
7-⑤	生活困窮者からの相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 ・高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ・ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 ・必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）との相互連携

【自殺・うつ病の予防】7-① ゲートキーパーの養成							
課題	客観的課題	自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、男性が7割を占める					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対して、不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある 					
目標	市民一人ひとりの気づきと見守りを促す						
内容	身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を養成する。あらゆる機会を捉え市民の身近な場所に出向き出前講座などを通して、ゲートキーパーの啓発を図る。						
対象者	市民、民生委員、理容師、薬剤師、介護福祉サービス事業者など						
実施者	市						
対策委員会の関わり	対策委員の提案や意見をもとに、自殺対策の窓口一覧をまとめた啓発冊子を作成し、出前講座等により配布している。						
29年度の実績及び改善した点等	<p>啓発回数 46回 啓発人数 2,336人 (主な啓発先)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員等 2回 651人 ・校区等 28回 635人 ・理容組合 1回 14人 ・職域 4回 114人 ・職員 2回 228人 ・その他出前講座 5回 132人 ・講演会 2回 302人 ・かかりつけ医 2回 260人 <p>思春期対策として、児童生徒と関わる教職員を対象に、児童生徒の自殺の実態、自殺に関連した行動・危険因子、対応方法等について、正しい知識の普及啓発を実施した。</p>						
30年度の方針及び課題等	・より一層の対象者拡大を図るとともに、地域への啓発を継続的に行うことにより、ゲートキーパーを浸透させていく。						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数	回	86	149	66	67	46
		人	3,746	5,290	3,527	2,294	2,336
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	%	2017より実施				87.7%
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件数 [精神保健相談]	件	154	145	155	154	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52	
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107
		件	34	25	41	32	28

【自殺・うつ病の予防】 7-② かかりつけ医と精神科医の連携強化

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、男性が7割を占める ・自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある 						
目標	適切な医療を受けられる体制づくり							
内容	内科等のかかりつけ医と精神科医が連携を強化することにより、うつ病の早期発見、早期治療のみならず医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を図る。							
対象者	内科等のかかりつけ医、精神科医、産業医など							
実施者	医師会、市							
対策委員会の関わり								
29年度の実績及び改善した点等	<p>かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態を継続して把握している。</p> <p>研修会は、前年度と同様、市内4医師会に加え、筑後地区一円の医師会共催で実施した。内容は、アルコール問題や子どものうつを取り上げ、参加者アンケートでは、「研修前と比べて理解が深まったか」との項目に対して、「とても」「まあまあ」と回答した人が、第1回第2回ともに9割以上となっており、参加者の研修会の満足度も高いものであった。</p> <p>○研修会を2回実施 (第1回) 123人 (第2回) 137人</p> <p>○アルコール健康障害に関連したツールの作成 医師会事業と連携を行い、アルコール健康障害に関連したツール(かかりつけ医・精神科医患者紹介手順・AUDIT等のスクリーニングテストを掲載した下敷き、診療情報提供書)を作成・医療機関に配布を行った。</p>							
30年度の方針及び課題等	かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。研修会の開催にあたっては、医師会事業との連携を行いながら、更なる連携を図っていく。							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	回	2	2	2	2	2	
		人	216	191	264	307	260	
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」	%	2017より実施				93.3	
【中期】態度・行動	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	件	1089	1146	1279	1257	集計中	
	②うつ病と診断された人の人数と割合 [うつ病アプローチ研修集計]	人	486	456	473	475	集計中	
		%	44.6	39.8	37.0	37.8	集計中	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52		
	②自損行為による救急出動数と死亡数[救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107	
		件	34	25	41	32	28	

【自殺・うつ病の予防】 7-③ 自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施 <拡充>

課題	客観的課題	自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る 					
目標	社会的な取り組みで自殺を防ぐ						
内容	自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有する。 2017年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。						
対象者	一般市民						
実施者	自殺対策連絡協議会委員及びセーフコミュニティ自殺予防対策委員、市						
対策委員会の関わり	自殺対策連絡協議会にはセーフコミュニティ対策委員会メンバーも入っており、積極的な意見や提案により、他の団体の意識も向上している						
29年度の実績及び改善した点等	<p>9月の自殺予防週間及び3月の自殺対策強化月間において、セーフコミュニティ自殺予防対策委員及び自殺対策連絡協議会参加団体と協働し、ポスター掲示や街頭啓発等を通して、普及啓発活動を行った。また、西鉄久留米駅における街頭キャンペーンへの参加も呼びかけ、3団体からの参加があった。</p> <p>協議会参加者へのアンケート結果からは、「既存のイベント等でのチラシ配布が可能である」という団体もあることから、更に連携した啓発活動を行っていく。</p>						
30年度の方針及び課題等	<p>自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、各団体や委員と連携し、普及啓発活動に取り組む。</p> <p>セーフコミュニティ自殺予防対策委員会で作成した「しおり」を活用し、より効果的な普及啓発活動を行う。</p>						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	【旧】自殺対策連絡協議会の開催回数	回	1	1	1	1	
	【新】啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	団体	2017より実施				
		箇所 部	2017より実施				
【短期】認識・知識	協議会参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施				
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	154	145	155	154	
		関係機関	44	50	56	29	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52	
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107
		件	34	25	41	32	28

【自殺・うつ病の予防】7-④ 民間団体と協働した相談の実施						＜拡充＞		
課題	客観的課題	自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る 						
目標	民間団体との連携を強化する取り組み							
内容	<p>○ハローワーク相談会 悩みのある方が多く訪問する場所の一つであるハローワークにおいて、借金、多重債務、損害賠償などの社会問題や、それらの問題から発生する心の問題の解決の糸口をみつけ、自殺予防およびうつ病の予防を目的とした相談会を実施する。</p> <p>○こころの相談カフェ 悩みを抱え込む前に気楽に相談できるよう、市民に身近な場所で、臨床心理士等のカウンセラーによる対面相談を実施する。</p>							
対象者	一般市民							
実施者	民間団体、市							
対策委員会の関わり	相談の開催などの広報周知							
29年度の実績 及び 改善した点等	<p>○ハローワーク相談会 全4回実施 計19件(19人)</p> <p>第1回目 2017年8月2日(水) 13～16時 5件</p> <p>第2回目 2017年9月25日(月) 13～16時 7件</p> <p>第3回目 2018年1月17日(水) 13～16時 5件</p> <p>第4回目 2018年3月8日(木) 13～16時 2件</p> <p>○こころの相談カフェの開催 全61回 200件(217人)</p> <p>心の悩みや不安を抱えている市民の身近な相談窓口として2016年8月に、岩田屋久留米店にて、臨床心理士等が対応する相談窓口を開設。2017年には、中高年男性も利用しやすいよう、久留米市立中央図書館にも窓口を増設し、相談を受け付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩田屋久留米店：毎週火曜日(51回実施) ・久留米市立中央図書館：偶数月の第3日曜日13時から16時、奇数月の第3火曜日17時から19時30分(10回実施) 							
30年度の方針 及び 課題等	<p>○ハローワーク相談会 ・特に自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会の実施を継続していく。</p> <p>○こころの相談カフェ ・2018年も引き続き、岩田屋久留米店、中央図書館での相談窓口を継続する。</p>							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数	回	2	4	4	4	4	
						34	61	
	②参加者数	人	15	22	24	22	19	
						125	217	
【短期】認識・知識	参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施					
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	154	145	155	154		
		関係機関	44	50	56	29		
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52		
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107	
		件	34	25	41	32	28	

【自殺・うつ病の予防】 7-⑤ 生活困窮者からの相談支援					＜新規＞		
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い 相談者の中には過去自殺未遂歴をもつ相談者、これまでに自殺企図、希死念慮をもつ相談者も少なからずいる。自殺企図、希死念慮を課題にもつ相談者アセスメント上の分類では3%程度であるが、相談する中で「死にたい」と吐露するなど、程度の差はあるが、支援印の実感ではもっと多い印象であった。 					
	主観的課題	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多い					
目標	相談のつなぎ元となる入口や、また多様な出口の支援のために連携先を増やす						
内容	生活に困りごとを抱えている相談者に伴走しながら支援を行い、困りごとのひとつひとつを解決に向けてともに相談していく。またつなげる連携先・制度等があれば伴走しながら、しかるべき支援につないでいく。						
対象者	生活に困りごとを抱えている一般市民						
実施者	久留米市生活自立支援センター（担当課：生活支援第2課）						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 自殺予防対策委員会にて、生活自立支援センターの相談状況を報告、評価検討している。 						
29年度の実績及び改善した点等	<p>新規相談受付件数 887 件/年 関係機関等から繋がった機関数 庁内 27 先/庁外 21 件 自立相談支援事業における支援計画策定数 513 件/年 支援終結件数 190 件/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017年については未集計であるものの、2016年について新規相談受付件数 845 件は、人口 10 万人あたりの件数では、全国の 115 都道府県・政令市・中核市で第 9 位となっており、久留米市の相談支援は全国的にも高い水準で実施している。 2017年もこれまでと同様、相談者のアセスメントをする中でプランを作成し、必要に応じて連携先（各支援窓口、医療機関、就労支援先等）に同行するなど相談者に寄り添った、伴走型の困りごと支援を行った。アセスメントをする中で、自己肯定感の低さから自殺企図をもつ相談者もいたため、適宜保健所をはじめとした関係機関と協働しながら相談者の支援にあたり、相談者の環境改善を図った。 						
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）との相互連携 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	新規相談受付件数	件			668	845	887
【短期】認識・知識	関係機関等から繋がった機関数 [支援入りロデータ]	機関			庁内 23 庁外 17	庁内 27 庁外 15	庁内 27 庁外 21
【中期】態度・行動	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援終結件数[支援プランデータ]	計画			177	475	513
		件			55	141	190
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52	
	自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107
		件	34	25	41	32	28

本審査 スケジュール【案】

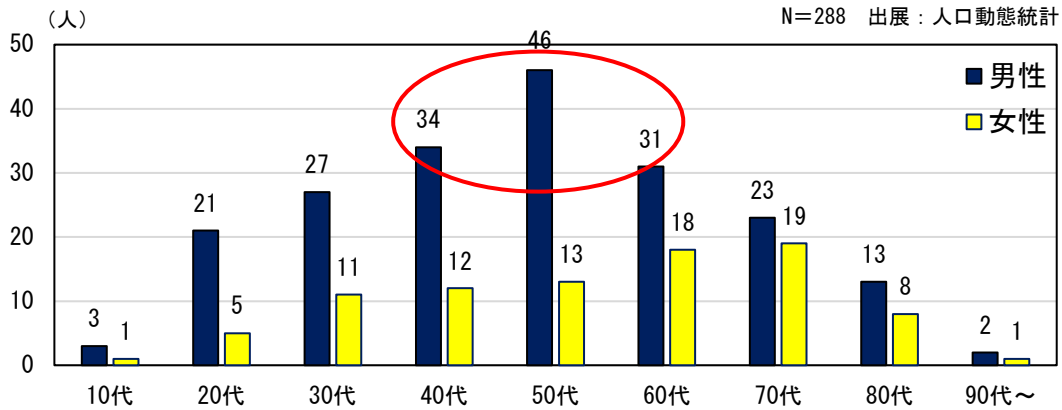
	1日目 7月29日(日)	2日目 7月30日(月)	3日目 7月31日(火)	4日目 8月1日(水)
9:00		市長表敬	⑦ 対策委員会 プレゼン 活動視察 外部	
10:00		① 市の概要説明 本庁舎401	↓	↓
11:00		② 対策委員会 プレゼン 本庁舎3F	⑧ 対策委員会 シティプラザ	松原市
12:00		昼食	昼食	
13:00		↓ 移動	⑨ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
14:00		③ 対策委員会 活動視察 外部かシティプラ	⑩ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
15:00		④ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	審査員ミーティング	
16:00		⑤ 対策委員会 シティプラザ	講評 シティプラザ	
17:00		⑥ 外傷等委員会 シティプラザ		
18:00				
19:00				

(7) 自殺予防対策委員会

久留米市内の外因による死亡の中で最も多いのが自殺であり、自殺者数は減少傾向にあるものの、年間 50~60 人前後の人が命を落としており、また自殺率は全国や福岡県と比べ、やや高い状況にあることから、自殺予防対策委員会では、「自殺・うつ病の予防」に重点を置いて取り組みを進めています。【図表人口動態 1~5 位】【図表自殺者の推移】【図表 10 万人当たり】

過去 5 年間の自殺の状況を年代・性別でみると、50 代前後の男性が特に多くなっています。

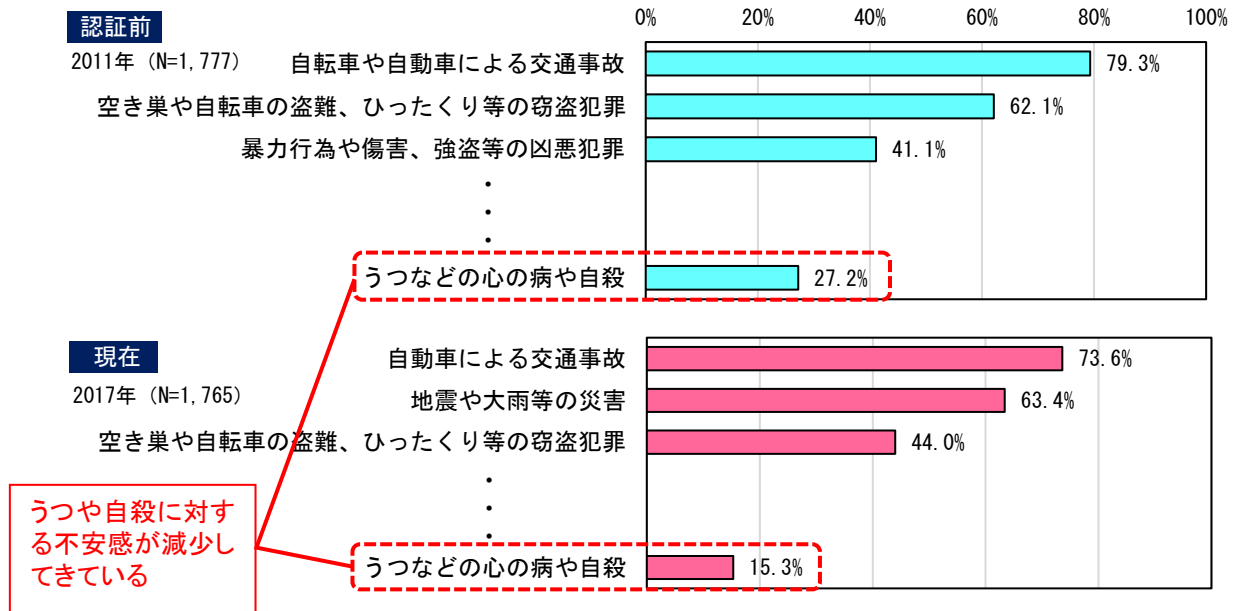
図表 年代別自殺者数 (2012~2016年の5年間)



普段の生活の中で、うつや自殺に対する不安を感じている人は、認証前に比べて減っており、自殺・うつ対策が広がっていることによるものと考えます。

図表 「普段の生活の中で不安に感じること」 (複数回答)

出展：市民意識調査

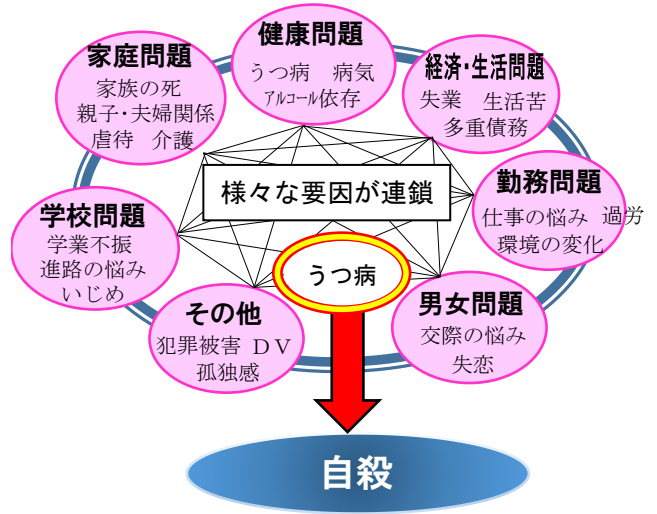
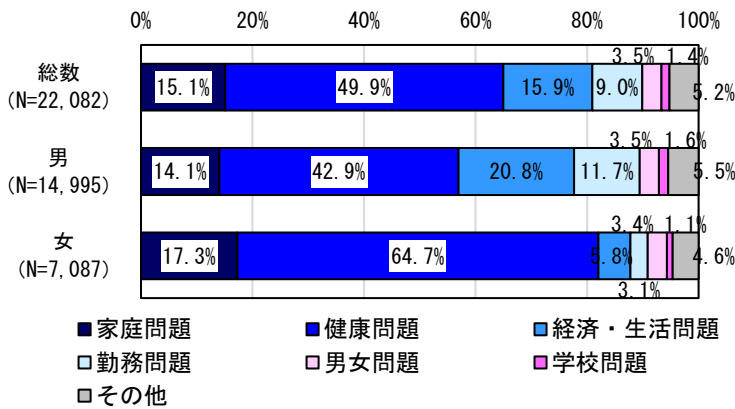


(市民に「あなたや家族が、普段生活する中で不安に感じることは何か」についてアンケート)

自殺の多くは、健康問題や経済問題、家庭問題など多様かつ複合的な要因が背景にあります。

図表 自殺の原因・動機

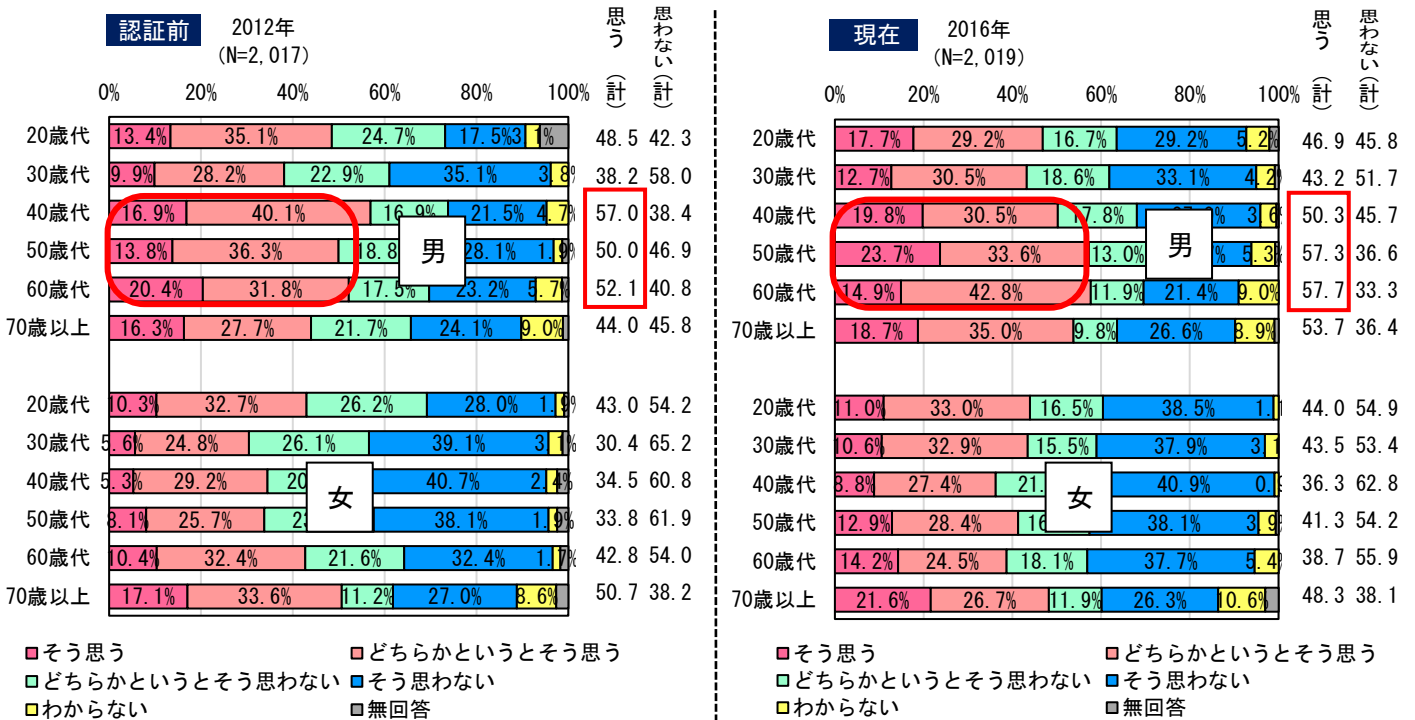
出展：2016年警察庁統計



※遺言等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき最大3つまで計上。
また上記の理由から、自殺者数 21,897 人（2016年）、うち原因・動機特定者 16,297 人と、総数は一致しない。

40～60 歳代男性の半数以上は、悩みを抱えたときに誰かに相談したり、助けを求めることのためにためらいを感じています。

図表 「悩みを抱えたりストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めることのためにためらいを感じるか」



出展：厚生労働省「自殺対策に関する意識調査」

自殺未遂者と自殺既遂者の精神科既往歴の割合を見たところ、自殺未遂者の6割程度が精神科にかかったことがあるのに対し、自殺既遂者は2割程度しか精神科にかかっていません。

図表 救急搬送における自殺未遂者・既遂者の精神科既往歴 出展：救急搬送データ

年	合計	自殺未遂者							自殺既遂者(死亡不搬送含む)								
		総数		精神科既往あり		かかりつけ(内科等)あり		自殺未遂歴あり(過去3年間)		総数		精神科既往あり		かかりつけ(内科等)あり		自殺未遂歴あり(過去3年間)	
		(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
2012	139	94	57	60.6%	67	71.3%	21	22.3%	45	16	35.6%	23	51.1%	3	6.7%		
2013	158	124	77	62.1%	95	76.6%	16	12.9%	34	9	26.5%	16	47.1%	1	2.9%		
2014	102	77	49	63.6%	60	77.9%	13	16.9%	25	5	20.0%	7	28.0%	0	0.0%		
2015	125	84	55	65.5%	72	85.7%	12	14.3%	41	6	14.6%	9	22.0%	2	4.9%		
2016	116	84	48	57.1%	56	66.7%	13	15.5%	32	6	18.8%	13	40.6%	0	0.0%		
2017	107	79	45	57.0%	65	82.3%	10	12.7%	28	8	28.6%	11	39.3%	0	0.0%		
合計	747	542	331	61.1%	415	76.6%	85	15.7%	205	50	24.4%	79	38.5%	6	2.9%		

自殺で亡くなった人の多くは、電気コードやネクタイなど身近にある道具を使った首吊りによるもので、その死亡率は高い傾向にあることから、自損行為に至る前の予防が重要になります。

自立支援センターに訪れる相談者は、自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている人が多く、図表○で示した「自殺の原因・動機」と非常に類似しています。また、自殺企図・念慮を含む相談もあり、生活困窮を理由とするハイリスク者への支援に対応しています。

図表 受傷形態別死亡割合 出展：救急搬送データ

2015~2017年 (3年間)	自損行為 対応者数 (人)	死亡件数			
		合計 (人)	男 (人)	女 (人)	割合 (%)
縊頸(首吊り)	90	75	56	19	83.3%
焼身	1	1	1	0	100.0%
飛び降り	22	12	8	4	54.5%
入水	4	0	0	0	0.0%
銃火器・刃物	60	2	0	2	3.3%
交通機関	2	2	1	1	100.0%
薬物全般	135	0	0	0	0.0%
ガス類	8	4	3	1	50.0%
その他	26	5	1	4	19.2%
合計	348	101	70	31	29.0%

図表 久留米市生活自立支援センターにおける相談内容
(複数回答) ※2015~2017年の累計
出展：久留米市生活支援第2課統計 N=1,713

No.	主な相談内容	数値	比率(%)
1	滞納・負債等	999	58.3%
2	仕事(転職)をしたい	632	36.9%
3	離婚協議・離別・別居	584	34.1%
4	単身	579	33.8%
5	精神疾患・メンタルヘルス	499	29.1%
8	高齢者(70歳以上)	397	23.2%
7	中卒・高校中退	369	21.5%
6	子供の課題	346	20.2%
9	介護・医療費支払い困難	295	17.2%
・	・	・	・
・	・	・	・
34	自殺企図・念慮	59	3.4%

経済的困窮、家庭の悩み、精神的な病気

重点項目	課題		方向性	No.	取組（当初）		No.	取組（現在）
自殺／うつ病の予防	①	客観的 自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、男性が7割を占める【図表年代別自殺者】	周りの気づきと見守りを促す	1	ゲートキーパーの養成	⇒ 見直し	1	ゲートキーパーの養成 [対応する課題:①②③]
	②	主観的 うつや自殺に対して、不安を感じる人が少ない【図表ふだん生活する中での不安感】						
	③	働कि盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある【図表相談へのためらい】						
	④	客観的 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い【図表精神科既往歴】	うつ病の早期発見から適切な治療につなぐ体制づくり	2	かかりつけ医と精神科医の連携強化	⇒ 継続	2	かかりつけ医と精神科医の連携強化 [対応する課題:①②③④]
	⑤	客観的 自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている【図表自殺の原因・動機】	社会的な取組で自殺を防ぐ	3	自殺対策連絡協議会の実施	⇒ 拡充	3	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施 [対応する課題:②③⑤]
			民間団体との連携を強化	4	ワンストップサービス相談の実施	⇒ 拡充	4	民間団体と協働した相談の実施 [対応する課題:②③⑤]
	⑥	客観的 自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い【図表生活支援課】	生活困窮を理由とするハイリスク者への支援			⇒ 新規	5	生活困窮者からの相談支援 [対応する課題:⑥⑦⑧]
	⑦	主観的 相談者の中には、自殺未遂、自殺企図、希死念慮の人も少なからずいる【図表生活支援課】						
⑧	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多い							

【自殺・うつ病の予防】7-① ゲートキーパーの養成


課題	客観的課題	自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、男性が7割を占める						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対して、不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある 						
目標	市民一人ひとりの気づきと見守りを促す							
内容	身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を養成する。あらゆる機会を捉え市民の身近な場所に出向き出前講座などを通して、ゲートキーパーの啓発を図る。							
対象者	市民、民生委員、理容師・美容師、薬剤師、介護福祉サービス事業者など							
実施者	市							
対策委員会の関わり	対策委員の提案や意見をもとに、自殺対策の窓口一覧をまとめた啓発冊子を作成し、出前講座等により配布している。							
5年間の活動内容	<p>①継続している活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民などを対象にゲートキーパー養成講座を開催している。 <p>②活動の見直し・新規活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年以降、地域の様々な団体を対象に養成講座を開催している。 ・2014年は理容組合を対象に養成講座を開催。市では30～50代の働き盛り世代の男性に自殺者が多いことから、働き盛り世代の男性に接する機会の多い理容師に着目した。 ・2016年は薬剤師を対象に養成講座を開催。薬局の窓口にて市民と定期的に関わる薬剤師に着目した。 							
	 							
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への啓発や職域・各種団体への働きかけを積極的に行ったことにより、地域におけるゲートキーパーの認識が深まった 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数	回	86	149	66	67	46	
		人	3,746	5,290	3,527	2,294	2,336	
【短期】認識・知識	新 参加者の意識変[参加者アンケート] 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	%	2017より実施				87.7	
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件 [精神保健相談]	件	154	145	155	154	集計中	
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52		
	自損行為による救急出動数と死亡数	件	158	102	125	116	107	
	[救急搬送データ]	件	34	25	41	32	28	

【自殺・うつ病の予防】7-② かかりつけ医と精神科医の連携強化

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、男性が7割を占める 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない 働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある 					
目標	適切な医療を受けられる体制づくり						
内容	内科等のかかりつけ医と精神科医が連携を強化することにより、うつ病の早期発見、早期治療のみならず医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を図る。						
対象者	内科等のかかりつけ医、精神科医、産業医など						
実施者	医師会、市						
対策委員会の関わり							
5年間の活動内容	<p>①地域の医師会と共催で、医師向けの研修会を、年に2回開催している。開催にあたっては、医師会から選出される委員による、研修会の検討会にて企画・運営を行っている。また、かかりつけ医からうつ病疑いで精神科医療機関に紹介された患者について、毎月、市保健所に報告する仕組みを継続して運用し、精神科医とかかりつけ医の連携状況の把握を行っている。</p> <p>②研修会は、管轄地域の4医師会共催で開催しているが、平成28年度からは、管轄地域の4医師会を含む筑後地区8医師会共催で研修会を開催しており、取り組みの拡がりが見られている。研修会のテーマに子どもや妊産婦についても取り上げる等、市民の健康問題やニーズに合わせた内容の工夫を行っている。</p> <p>これまで、「うつ病」を中心に、かかりつけ医と精神科医の連携を進めているが、自殺やうつと関連の深い「アルコール健康障害」の連携促進にも取り組んでおり、平成29年度には、アルコール問題にも対応した、診療情報提供書やかかりつけ医・精神科医の連携フローチャートの検討・作成を行い、各医療機関へ周知している。</p> <p>(研修会の様子)</p>  <p>(紹介件数)</p> 						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> 活動が、かかりつけ医・精神科医の顔の見える関係づくりやネットワークの形成・強化に繋がった。(「かかりつけ医と精神科医の連携システム」として認知されている) 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	回	2	2	2	2	2
		人	216	191	264	307	260
【短期】認識・知識	参加者の意識変[参加者アンケート] 「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか」	%	2017より実施				93.3 98
【中期】態度・行動	うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	件	1089	1146	1279	1257	集計中
	うつ病と診断された人の人数と割合 [うつ病アプローチ研修集計]	人	486	456	473	475	集計中
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52	集計中
	自損行為による救急出動数と死亡数[救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107
		件	34	25	41	32	28

※自殺対策連絡協議会は、47の団体で構成され、自殺対策を推進するために情報の共有や取組みの検討等を行っている。

【自殺・うつ病の予防】7-③ 自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施 <拡充>								
課題	客観的課題	自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る 						
目標	社会的な取り組みで自殺を防ぐ							
内容	自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有する。2017年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。							
対象者	一般市民							
実施者	自殺対策連絡協議会委員及びセーフコミュニティ自殺予防対策委員、市							
対策委員会の関わり	自殺対策連絡協議会のメンバーにはセーフコミュニティ対策委員のメンバーも入っており、積極的な意見や提案により、他の団体の意識も向上している							
5年間の活動内容	<p>①2016年までは、自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取組について情報を共有する事を目的に、年に1度自殺対策連絡協議会を開催。連携強化の面から、看護協会や薬剤師会、ゲートキーパー絆の会を委員に追加するなどメンバーの拡大を図った。</p> <p>②2017年度からは、自殺対策連絡協議会の開催に加え、協議会の委員やセーフコミュニティ対策委員として啓発活動にも取り組み、自殺予防週間や自殺対策強化月間の際には、ポスター、グッズの配布を行っている</p>							
	 							
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化 ・協議会委員や自殺予防対策委員として、キャンペーン活動に参加 							
指標	内容		単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	旧	自殺対策連絡協議会の開催回数	回	1	1	1	1	
	新	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	団体	2017より実施				
			箇所 部	2017より実施				
【短期】認識・知識	新	協議会参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施				
【中期】態度・行動	-	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	154	145	155	154	集計中
			関係機関	44	50	56	29	集計中
【長期】状況	-	自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52	
	-	自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107
			件	34	25	41	32	28

【自殺・うつ病の予防】7-④ 民間団体と協働した相談の実施						＜拡充＞		
課題	客観的課題	自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない ・働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る 						
目標	民間団体との連携を強化する取り組み							
内容	<p>○ハローワーク相談会 悩みのある方が多く訪問する場所の一つであるハローワークにおいて、借金、多重債務、損害賠償などの社会問題や、それらの問題から発生する心の問題の解決の糸口をみつけ、自殺予防およびうつ病の予防を目的とした相談会を実施する。</p> <p>○こころの相談カフェ 悩みを抱え込む前に気楽に相談できるよう、市民に身近な場所で、臨床心理士等のカウンセラーによる対面相談を実施する。</p>							
対象者	一般市民							
実施者	民間団体、市							
対策委員会の関わり	相談の開催などの広報周知							
5年間の活動内容	<p>○ハローワーク相談会 ・ハローワーク（公共職業安定所）で求職活動をしている方を対象に、司法書士と保健師・精神保健福祉士による相談会を年に4回実施している。 ・相談会終了後は情報共有を図り、継続支援を行っている。</p> <p>○こころの相談カフェ ・2016年8月に開設し、週に1回平日の昼間に、民間の商業施設にて開催。 ・女性の利用が多く、久留米市の男性の自殺者が多いという現状を踏まえ、男性がより相談しやすい時間帯と場所を検討し、2017年6月からは、市立中央図書館にて、平日夜間及び日曜日に開設している。</p>							
								
質的成果	こころの相談カフェは、百貨店での開催に加え、2017年度より、中高年男性がより相談しやすいよう、場所や時間を工夫し、図書館で実施するなど、相談体制の拡充が図られた							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数	回	2	4	4	4	4	
			2016から追加			34	61	
	参加者数	人	15	22	24	22	19	
						125	217	
【短期】認識・知識	参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施					
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	154	145	155	154		
		関係機関	44	50	56	29		
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	57	52	58	52		
	自損行為による救急出勤数と死亡数 [救急搬送データ]	件	158	102	125	116	107	
		件	34	25	41	32	28	

【自殺・うつ病の予防】7-⑤ 生活困窮者からの相談支援

＜新規＞

客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い 相談者の中には過去自殺未遂歴をもつ相談者、これまでに自殺企図、希死念慮をもつ相談者も少なからずいる。自殺企図、希死念慮を課題にもつ相談者アセスメント上の分類では3%程度であるが、相談する中で「死にたい」と吐露するなど、程度の差はあるが、支援員の実感ではもっと多い印象であった。 						
主観的課題	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多い						
目標	相談のつなぎ元となる入口や、また多様な出口の支援のために連携先を増やす						
内容	生活に困りごとを抱えている相談者に伴走しながら支援を行い、困りごとのひとつひとつを解決に向けてともに相談していく。またつなげる連携先・制度等があれば伴走しながら、しかるべき支援につないでいく。						
対象者	生活に困りごとを抱えている一般市民						
実施者	久留米市生活自立支援センター（担当課：生活支援第2課）						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 自殺予防対策委員会にて、生活自立支援センターの相談状況を報告、評価検討している。 						
5年間の活動内容	<p>① 2015年6月より久留米市役所内に生活自立支援センター（相談窓口）を開設し、日々来所および訪問での、困りごとの相談の面談を行う。アセスメントをする中でプランを作成し、必要に応じて連携先（各支援窓口、医療機関、就労支援先等）に同行するなど相談者に寄り添った、伴走型の困りごと支援を行う。継続して関係機関と連携して支援を行っていく。</p> <p>② 相談件数、支援プラン作成数ともに、毎年増加している。（下記参照） 雇用情勢が上向きになっていることも相まって就労者・増収者も毎年増加しており、生活基盤の安定を図れている。2017年については未集計であるものの、2016年について新規相談受付件数845件は、人口10万人あたりの件数では、全国の115都道府県・政令市・中核市で第9位となっており、久留米市の相談支援は全国的にも高い水準で実施している。</p>						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> 相談者が相談できる窓口、相談できる人を増やすよう努めた。 相談者本人の自己肯定感をエンパワメントするよう努めた。 自殺未遂、自殺企図、希死念慮の方の不安材料を取り除いた。 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	- 新規相談受付件数	件	-	-	668	845	887
【短期】認識・知識	- 関係機関等から繋がった機関数 [久留米市生活支援2課統計]	機関	-	-	庁内 23 庁外 17	庁内 27 庁外 15	庁内 27 庁外 21
【中期】態度・行動	- 自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援終結件数[久留米市生活支援2課統計]	計画 件	-	-	177 55	475 141	513 190
【長期】状況	- 自殺者数[人口動態統計]	人	58	52	57	52	
	- 自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件 件	158 34	102 25	125 41	116 32	107 28

久留米市セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

発表日 2017年10月24日
発表者 自殺予防対策委員会委員長
所属 久留米大学 内村 直尚

1. 自殺予防対策委員会の構成メンバー

区分		所属
専門組織	1	久留米大学
	2	(一社)久留米医師会
住民組織等	3	久留米市民生委員児童委員協議会
	4	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	5	グリーンコープ生活協同組合ふくおか
関係機関	6	久留米市広域消防本部
	7	久留米警察署(総務第二課)
行政機関	8	久留米市協働推進部消費生活センター
	9	久留米市健康福祉部生活支援第2課
	10	久留米市商工観光労働部労政課
	11	久留米市教育部学校教育課
	12	久留米市健康福祉部保健所保健予防課

2016年度(平成28年度)にNo7委員を追加

2.自殺予防対策委員会の開催実績(認証後)

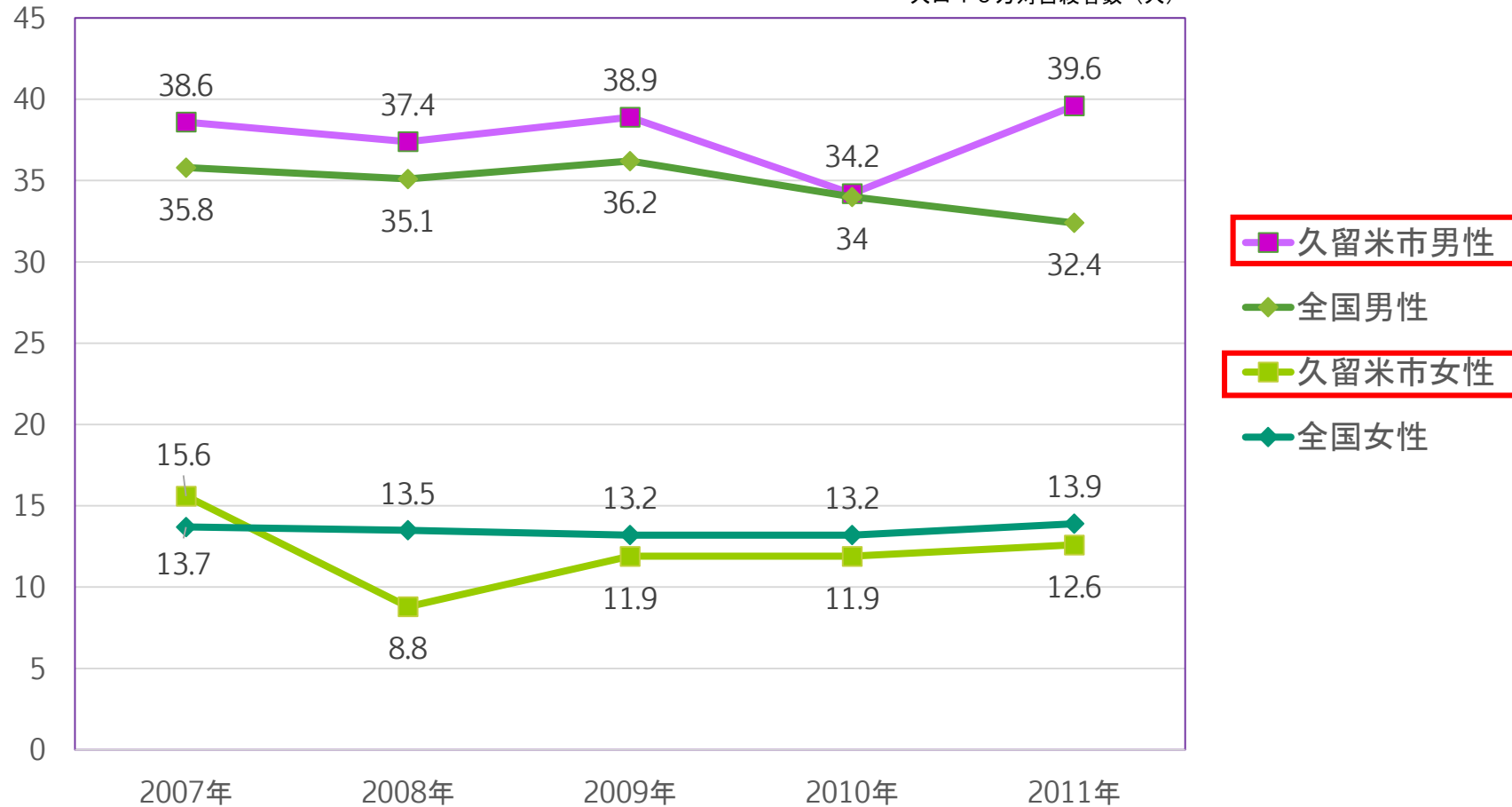
回数	開催日	主な協議事項
第11回	2014.10.17	認証取得後の取り組み、具体的取り組みの進捗と今後の取り組み方針について
第12回	2015.4.20	2014年度取り組みの実績について、指標の見直しについて
第13回	2015.9.14	対策委員会としての課題と取り組みについて
第14回	2016.4.26	これまでの取り組みに関する効果確認・改善について
第15回	2016.11.15	再認証取得に向けた具体的施策の検証について
第16回	2017.4.25	2016年度取り組みの実績について、2017年度取り組みについて
第17回	2017.7.3	セーフコミュニティ事前指導について、今後の取り組みについて
第18回	2017.10.24	再認証事前指導
第19回	2018.1.31	再認証事前指導の講評への対応、セーフコミュニティ実態調査の活用について
第20回	2018.4.10	2017年度取組実績及び2018年度取組方針について、本審査について

3-1.自殺予防対策委員会の必要性(設置の背景)

【図表1】全国・久留米市の自殺死亡率の推移

出典：人口動態統計

人口10万対自殺者数(人)



男性の自殺死亡率は全国に比べると高く、女性は低い傾向にある

3-2. 自殺の状況(市内の自殺の状況)

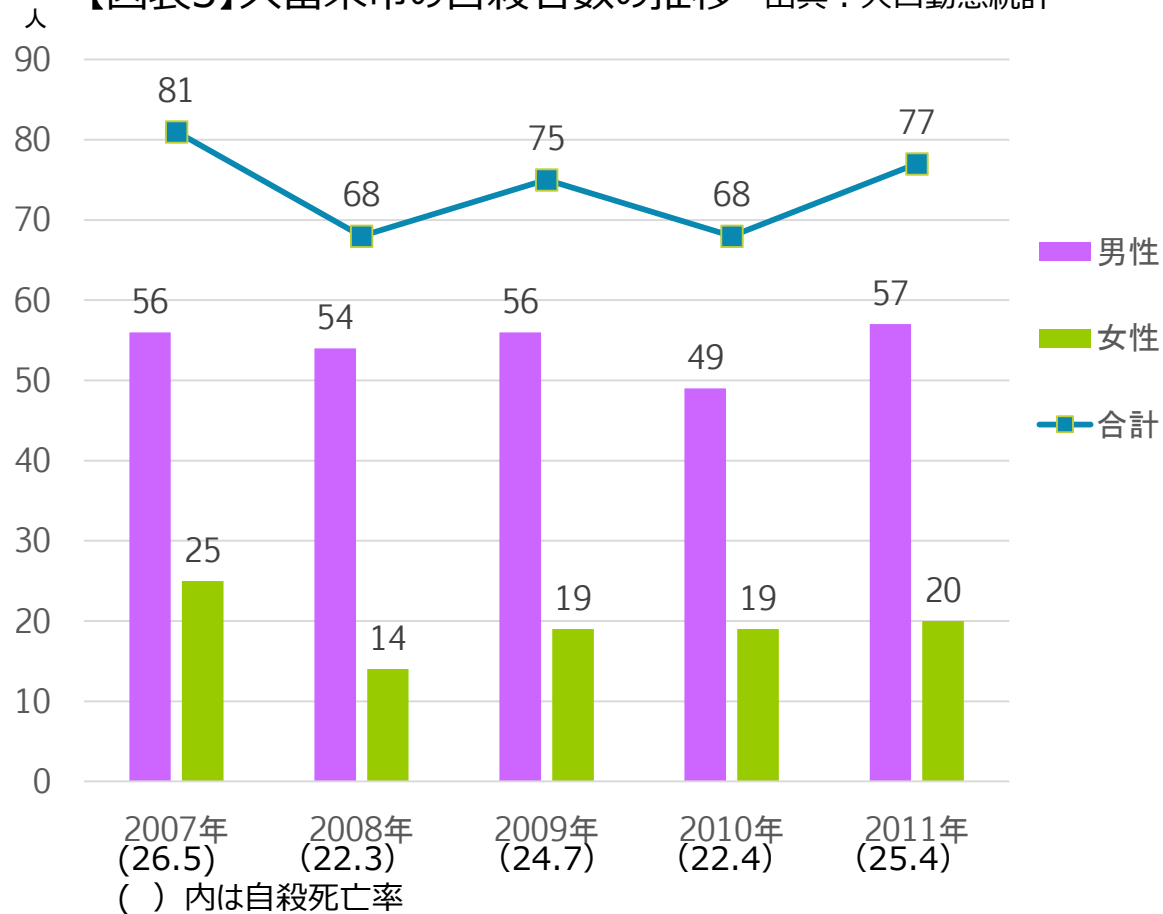
【図表2】年齢層別外的要因による死亡原因
出典：人口動態統計（2000～2012累計）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故	その他不慮の事故		
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	中毒	転倒・転落
40～49歳	自殺	交通事故	その他不慮の事故	他殺	溺死・溺水
50～59歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	その他不慮の事故
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	その他不慮の事故	転倒・転落	自殺
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	その他不慮の事故	交通事故
合計	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

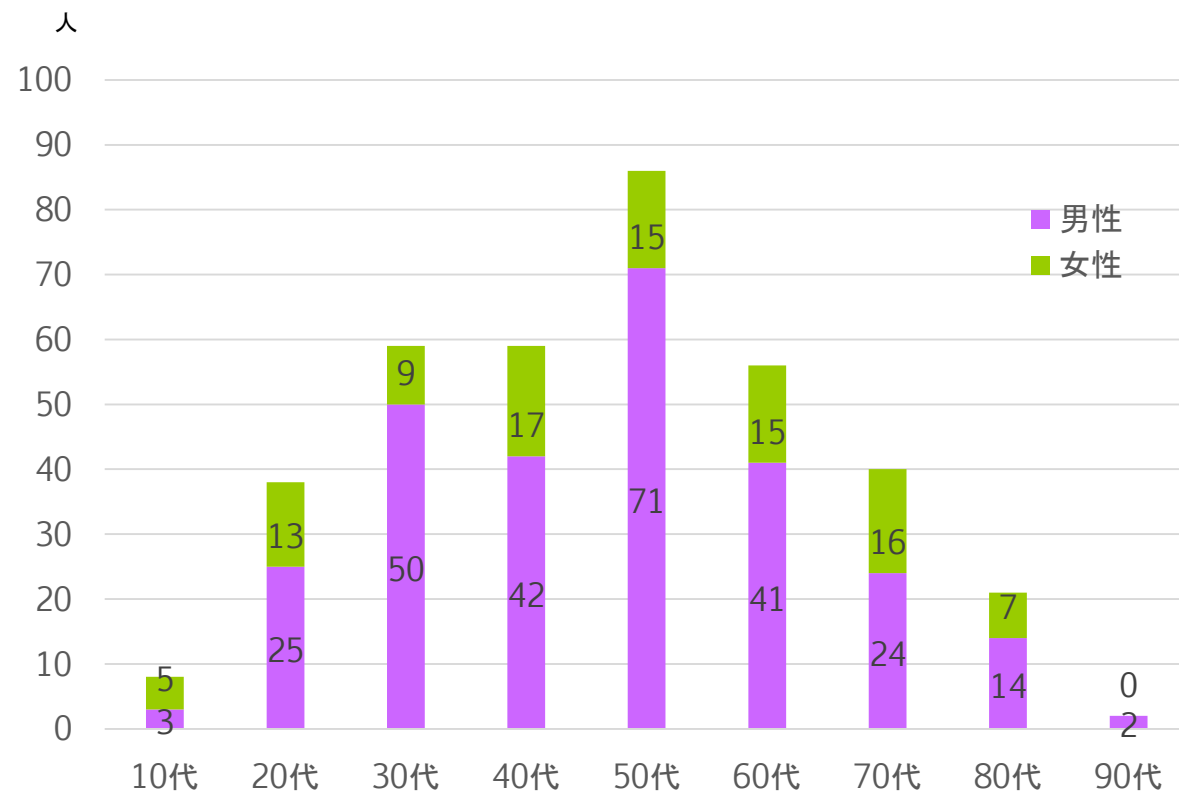
死亡原因（病気を除く）は、幅広い世代で「自殺」が最多

4-1.自殺の状況(市内の自殺の状況)

【図表3】久留米市の自殺者数の推移 出典：人口動態統計



【図表4】年代別性別自殺者数 出典：人口動態統計（2007～2011累計）

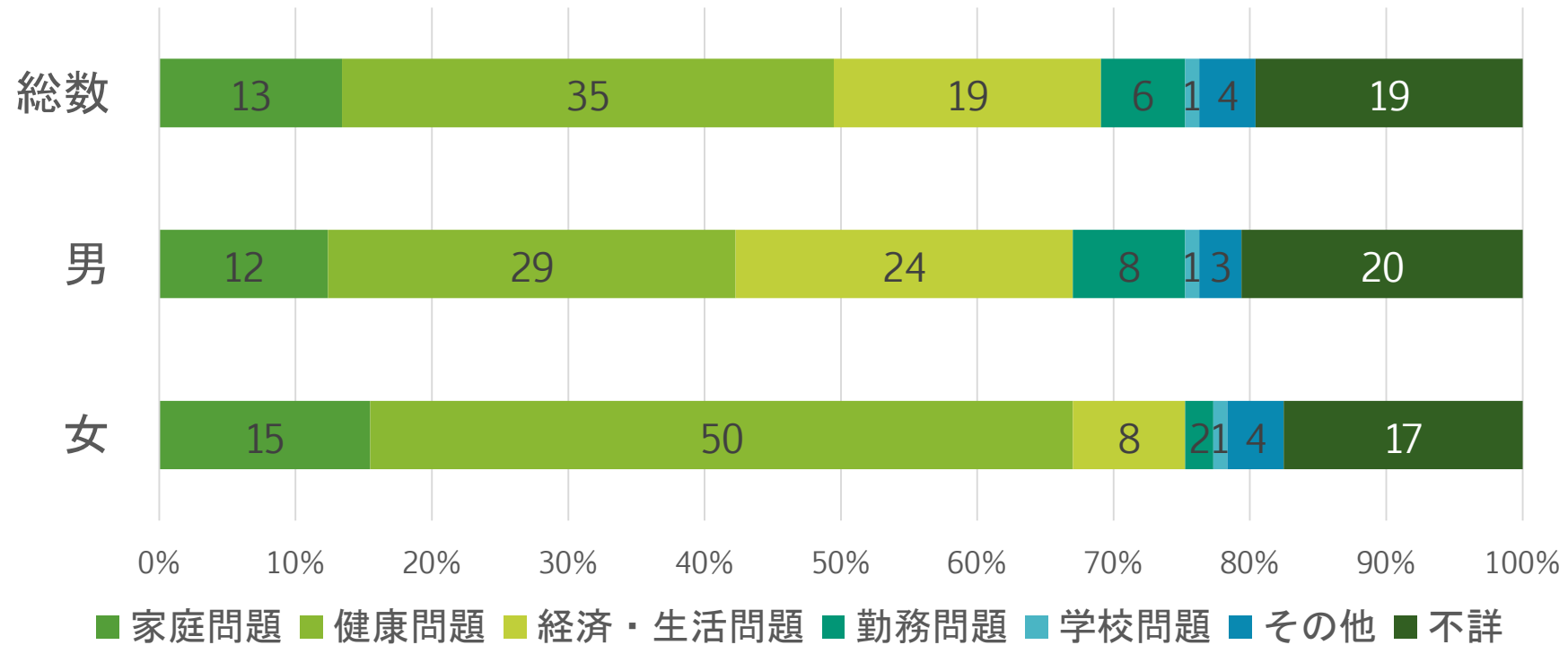


自殺者の約7割が男性。50代男性が最も多い。

4-2.自殺の状況(市内の自殺の状況)

【図表5】自殺の原因・動機別データ 出典：警察庁統計

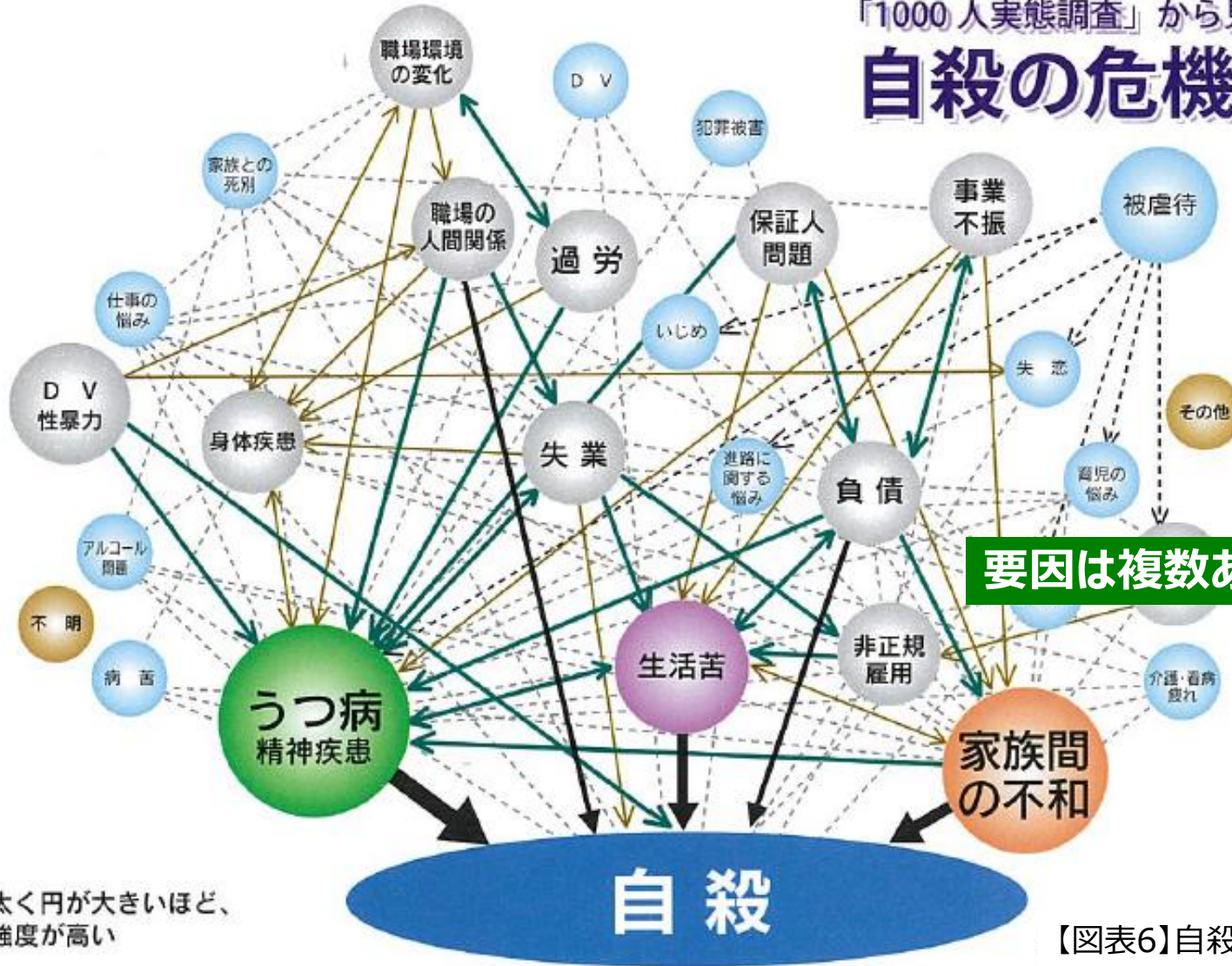
2009～2013年原因・動機別(2010年を除く)



自殺の原因は、【健康問題】が最も多い。

4-2.自殺の状況(市内の自殺の状況)

「1000人実態調査」から見えてきた
自殺の危機経路



要因は複数あり複雑に絡み合っている。

が太く円が大きいほど、
の強度が高い

【図表6】自殺の危機経路 出典：NPOライフリンク

4-3.自殺の状況(久留米市「市民意識調査」)

【図表7】ふだん生活する中で不安に感じること
出典：2011年度市民意識調査

【男性】

【女性】

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
20代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	職場のケガ事故	自殺やうつ病の増加
30代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加	学校や登下校
40代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	学校や登下校	性的犯罪
50代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	家庭・職場のケガ事故	
60代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	家庭のケガ事故	自殺やうつ病の増加
70代～	交通事故	家庭のケガ事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	余暇や運動中

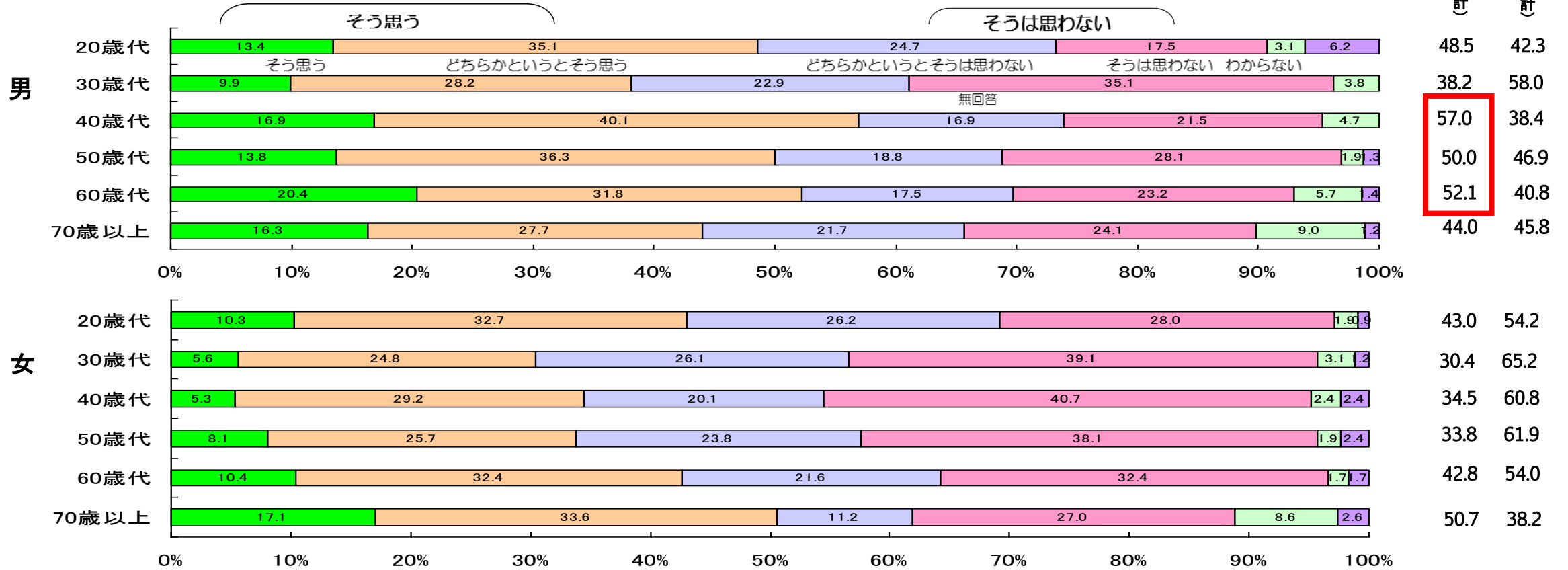
年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
20代	交通事故	窃盗犯罪	性的犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加
30代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	性的犯罪	学校や登下校
40代	交通事故	窃盗犯罪	学校や登下校	性的犯罪	凶悪犯罪
50代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	性的犯罪	家庭のケガ事故
60代	交通事故	窃盗犯罪	家庭のケガ事故	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加
70代～	交通事故	家庭のケガ事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加

40代、50代は自殺が多い年代だが、「自殺やうつ病の増加」の不安は低い

4-4. 自殺の状況(内閣府「自殺対策に関する意識調査」)

【図表8】自殺対策に関する意識調査 出典：内閣府（2012年1月）

悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるかどうか



中高年の男性は、悩みを一人で抱え込む傾向にある。

4-5.自殺の状況(内閣府「自殺対策に関する意識調査」)

Q.身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき
精神科の病院へ相談することを勧めるか？

YES
72.7%

Q.自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき
自ら精神科の病院へ相談に行こうと思うか？

YES
51.2%

Q.自殺を考えたとき、どのように乗り越えたか？

第1位 家族や友人、職場の同僚など身近な人に話を聞いてもらった

※自分のことになると躊躇する

出典：内閣府「自殺対策に関する意識調査」2012年1月

4-6. 自殺の状況(市内の自殺の現状)

電気コード・ネクタイ・ロープ等、身近で手軽な道具が特徴

【図表9】救急搬送における自殺未遂者・既遂者の精神科既往歴

出典：救急搬送データ

	未遂者		既遂者（不搬送含む）			
	総数	精神科医 既往歴有	総数	精神科医 既往歴有		
2009年	112	72	64.3%	43	12	27.9%
2010年	113	67	59.3%	36	8	22.2%
2011年	135	74	54.8%	47	9	19.1%
合計	360	210	59.2%	126	29	23.0%

自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い

	出動件数	死亡件数			
		割合	男	女	
首吊り	116	91	78%	65	26
焼身	2	1	50%	0	1
飛び降り	20	10	50%	2	8
入水	2	1	50%	1	0
銃火器・刃物・鋭利物	89	2	2%	1	1
交通機関	3	2	67%	1	1
薬物全般	213	1	0.5%	0	1
ガス類	27	13	48%	11	2
その他の自損行為	12	4	33%	3	1
不明	2	1	50%	0	1
合計	486	126	26%	84	42

(A) (B) (B/A)

自損行為に至る前の予防が大事

5. 課題の整理(データから見る)

客観的データ

- 働き盛りの年代の男性に自殺者が多い (図表4)
- 病気を除く死亡原因では、幅広い世代で、自殺が最多 (図表2)
- 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い (図表9)
- 自殺の要因は複数あり複雑に絡み合っている (図表5・6)

主観的データ

- 「うつや自殺」に対する不安を感じる人が少ない (図表7)
- 中高年男性は悩みを一人で抱え込む傾向がある (図表8)



重点課題の決定

6. 優先的に取り組む重点課題

客観的データ

① 自殺者数は数年横ばいで推移し、男性が7割 (図表2・4)

③ 自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡んでいる (図表5・6)

⑤ 自損行為に至る前の予防が大事 (図表9)

主観的データ

② 30～50代の自殺が多いが不安意識は低い (図表7)

④ 働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る (図表8)

自殺・うつ病の予防

7.課題解決のための方向性と対応(具体的施策)

<図表10>

課 題	方向性	施策No	見直し	具体的施策
①自殺者数は横ばい、男性7割 ②30～50代の自殺が多いが不安の意識は低い	a	1		かかりつけ医と精神科医の連携 (旧：かかりつけ医うつ病アプローチ研修)
	b	2		ゲートキーパーの養成
③自殺に至る要因は複数で、絡み合っている	c	3		自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 (旧：自殺対策連絡協議会)
	d	5		ベッドサイド法律相談 (1 かかりつけ医者と精神科医の連携に統合)
④30～50代の男性が誰にも相談できず に自殺に至る	b	2		ゲートキーパーの養成
	e	4		民間団体と協働した相談 (旧：ワンストップサービス相談)
	f	6	*	生活困窮者の相談 (2017年度から)
⑤自損行為に至る前の予防が大切	b	2		ゲートキーパーの養成

方向性：a.適切な医療を受けられる体制づくり b.市民一人ひとりの気づきと見守りを促す取組み c.社会的な取組で自殺を防ぐ
d.自殺未遂者の再企図防止 e.民間団体との連携を強化する取組み f.生活困窮を理由とするハイリスク者への支援

8.レベル別の対策(具体的施策)

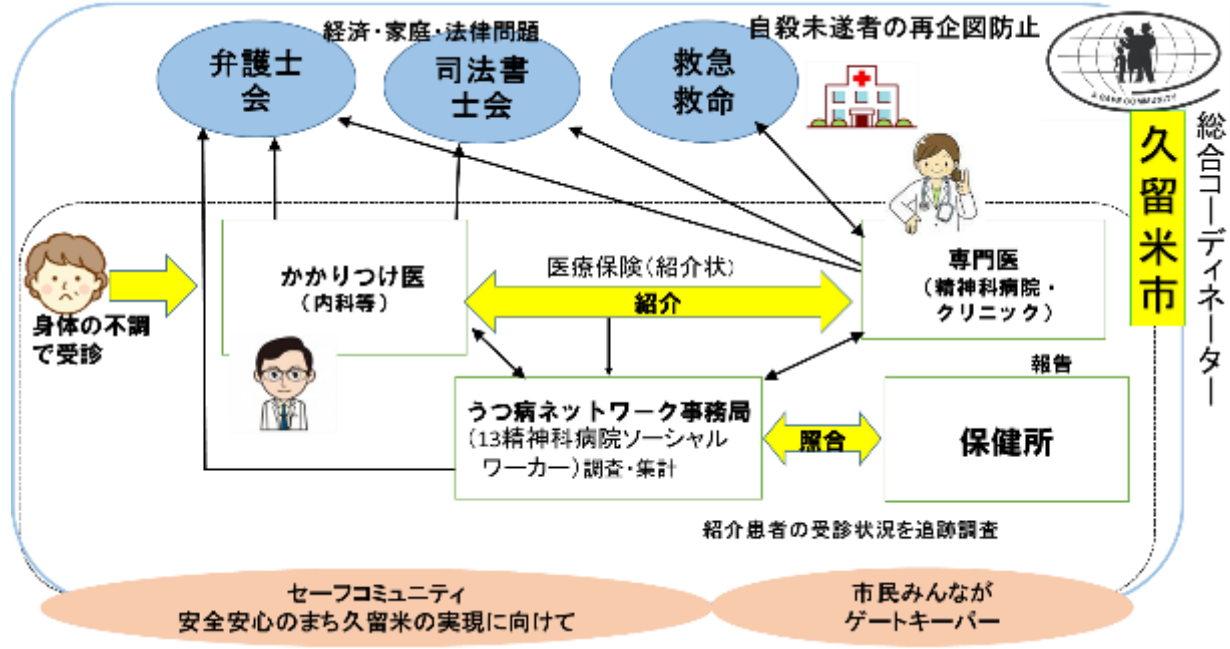
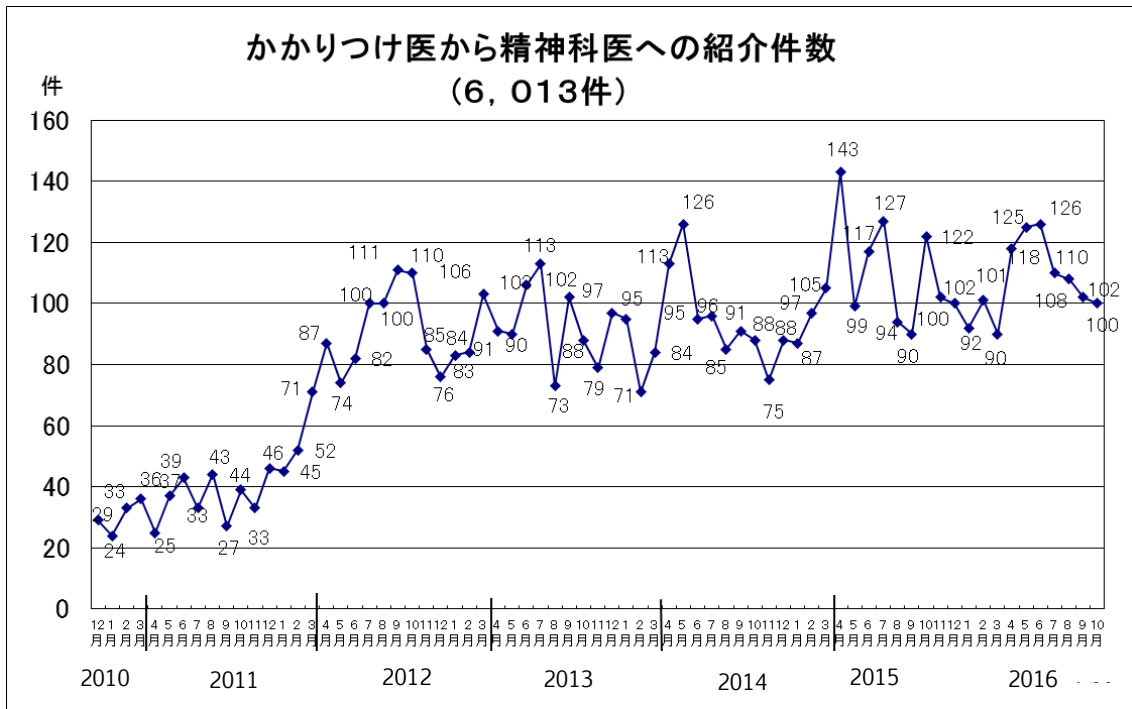
<図表11>

課題	対策		
	国県レベル	市レベル	地域レベル
・自殺者は横ばい、男性7割	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	地域の連携強化	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ①かかりつけ医と精神科医の連携 </div>
・30～50代の自殺が多いが不安の意識は低い ・自殺に至る要因は複数で、絡み合っている	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 相談窓口の充実	出前講座の参加・ゲートキーパー活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ②ゲートキーパーの養成 ③自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 【パンフレット配布・ポスター設置】 </div>
・自損行為に至る前の予防が大切	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 地域の連携強化	
・30～50代の男性が誰にも相談できずに自殺する	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 相談窓口の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ④民間団体と協働した相談 ⑤生活困窮者の相談 </div>

9-1-1. 具体的施策の取り組みと成果

かかりつけ医と精神科医の連携<施策番号 1 >

自殺対策「久留米方式」の概要



- ・2014年 かかりつけ医の紹介患者の追跡調査を開始
- ・2015年 筑後地区一円の医師会への周知

- ・2012年 司法書士会が、自殺未遂者の法的支援を目的に「ベッドサイド法律相談」を開始
- ・2013年 弁護士会が、自殺の危険の高い方の支援者に対する無料法律相談を開始
- ・医療、司法、行政、市民が一体となったネットワークへと拡大

市内4医師会に加え、筑後地区一円の医師会での共催で研修会を実施し、連携の拡大を図った

9-1-2. 具体的施策の取り組みと成果

かかりつけ医と精神科医の連携 <施策番号 1 >

<図表 12>

指標		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	2回 216人	2回 191人	2回 264人	2回 307人	2回 260人
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕 「研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まったと答えた人の割合」	-	-	-	-	93.3 98
中期	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	1089	1146	1279	1257	
中期	②うつ病と診断された人の人数と割合	486人 44.6%	456人 39.8%	473人 37.0%	475人 37.8%	
長期	①人口10万対自殺者数〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	
長期	②自損行為による救急出動数と死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

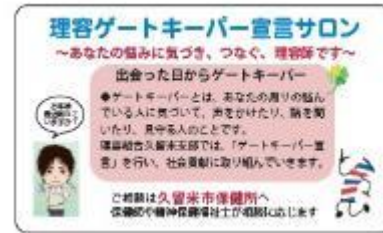
9-2-1. 具体的施策の取り組みと成果

ゲートキーパーの養成 < 施策番号 2 >

身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を養成する。



- ・2014年 民生委員や理容師の方への研修
 - ・2015年 タクシー組合や料飲業組合等への研修
消費生活センターと出前講座をタイアップ
 - ・2016年 薬剤師会への研修
- ⇒ 2017年度中に、市内全校区（46）での啓発が目標



2016年 理容組合と協働で作成し、
加盟店などに設置



委員も啓発冊子作成への提案や意見



市民ゲートキーパー絆の会と
啓発キャンペーン等で連携

9-2-2. 具体的施策の取り組みと成果

ゲートキーパーの養成 < 施策番号 2 >

< 図表13 >

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	ゲートキーパー啓発回数及び人数	86回 3,746人	149回 5,290人	66回 3,527人	67回 2,294人	46回 2,336人
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	-	-	-	-	87.7%
中期	うつ・自殺に関する相談件数	198件	195件	211件	203件	件
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	
長期	②自損行為による救急出動数と 死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-3-1. 具体的施策の取り組みと成果

自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発＜施策番号3＞

自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有。
2017年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。



- 2013年 大学病院、地域、弁護士会の取り組み報告
- 2104年 参加者意識の向上講演会
- 2015年 実践的な取り組み事例発表
- 2016年 参加者意識向上のための講話と実践報告



自殺対策強化月間のポスター掲示や
グッズの配布等の啓発活動

9-3-2. 具体的施策の取り組みと成果

自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 < 施策番号 3 >

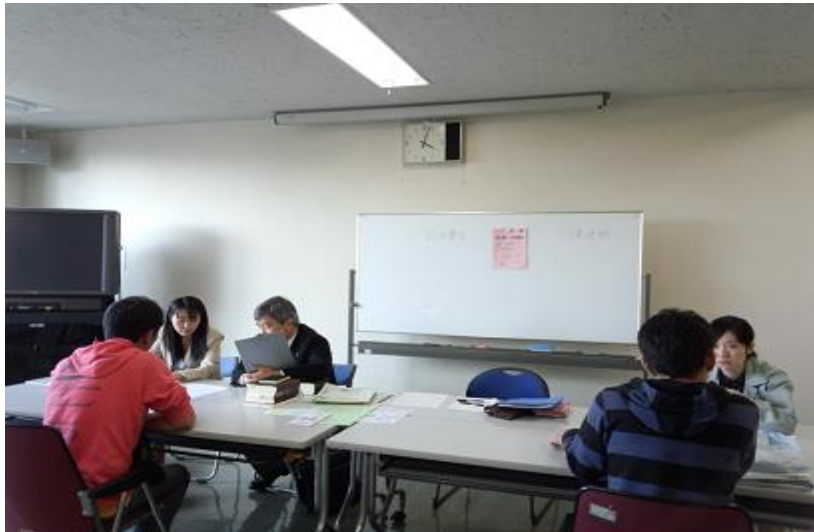
< 図表14 >

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	-	-	-	-	
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕	-	-	-	-	
中期	うつ・自殺に関わる相談件数 (うち関係機関からつながった件数)	198件 (44件)	195件 (50件)	211件 (56件)	203件 (49件)	件 (件)
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	-
長期	②自損行為による救急出動数と死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-4-1. 具体的施策の取り組みと成果

民間団体と協働した相談 < 施策番号 4 >

◆ハローワーク相談会の開催



- 司法書士と保健師・精神保健福祉士によるハローワークで求職活動をしている方を対象にした相談会
- 2013年 ハローワークでの相談会（3回開催）
（司法書士会と協働）
- 2015年 年4回開催へ拡大
- 各相談会終了後は、情報共有を図り、継続支援

◆「こころの相談カフェ」新規開設



- 臨床心理士等の専門カウンセラーによる対面相談の実施
- 2016年8月 開設（週1回の開催）
民間の商業施設にて、平日の昼間に開催
- 2017年～ 拡充
市立中央図書館にて、平日夜間及び日曜日に開設（月1回）

9-4-2. 具体的施策の取り組みと成果

民間団体と協働した相談＜施策番号 4＞

＜図表15＞

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ（2016年8月～）等の開催回数	2回 (15人)	4回 (22人)	4回 (24人)	4回(22人) 34回(125人)	4回(19人) 61回(217人)
短期	相談後のアンケートの実施	-	-	-	-	
中期	うつ・自殺に関わる相談件数 (うち関係機関からつながった件数)	198件 (44件)	195件 (50件)	211件 (56件)	203件 (49件)	件 (件)
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	
長期	②自損行為による救急出動数と 死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-5-1. 具体的施策の取り組みと成果

生活困窮者の相談 < 施策番号 5 >

2017年度から新規



- ・自殺の原因は、「健康問題」に次いで、「経済・生活問題」が多く、経済的な問題を抱えている人が多い。(図表4)
- ・2015年に久留米市生活自立支援センターを開設し、生活困窮状態にある市民への相談支援を実施
- ・経済的な問題をはじめとした様々な相談を受け、相談にあわせた支援プランを作成。関係機関と連携しながら伴走型の支援を行う
- ・例年の相談件数増加を受けて、2017年度よりさらに相談支援員を増員。相談者本位の相談を心がけている。

9-5-2. 具体的施策の取り組みと成果

生活困窮者からの相談 <施策番号 5 >

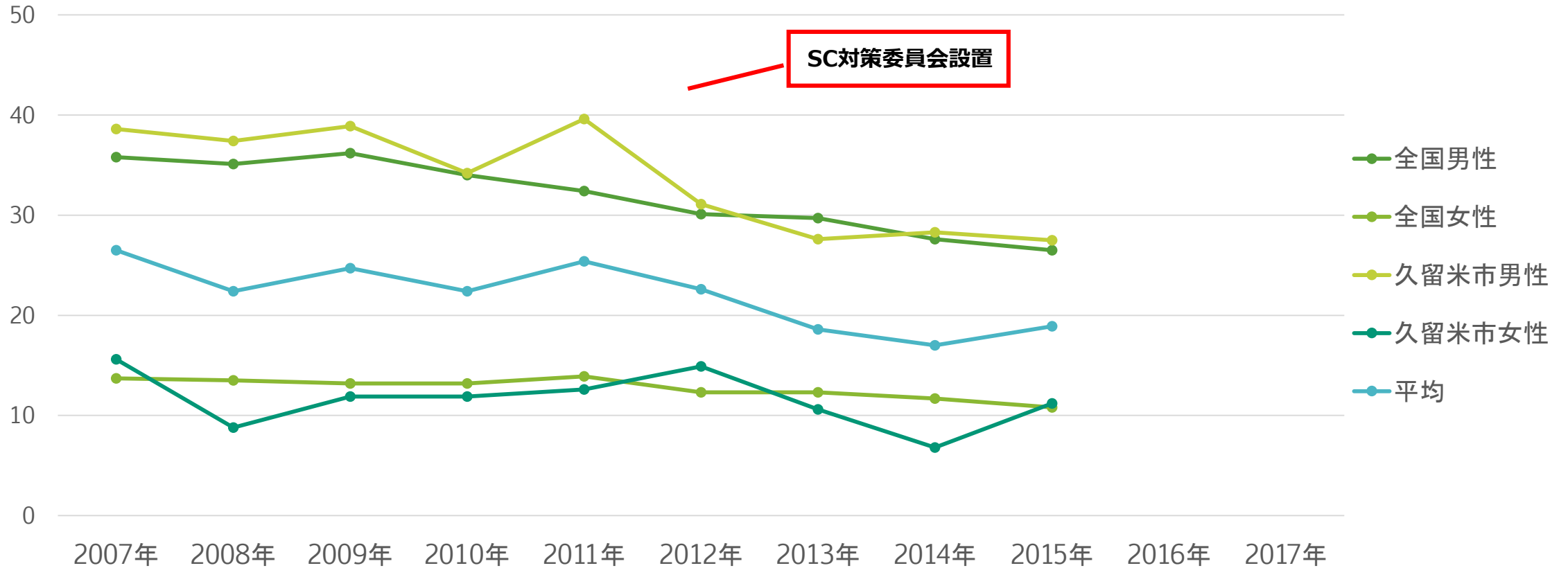
<図表 16>

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	新規相談受付件数	-	-	668	845	887
短期	関係機関等から繋がった機関数	-	-	庁内23庁 外17	庁内27 庁外15	庁内27 庁外21
中期	自立相談支援事業における支援 計画策定数及び支援終結件数	-	-	177	475	513
				55	141	190
長期	①人口10万対自殺者数〔人口 動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	
長期	②自損行為による救急出動数と死 亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

10. 全体の成果

人口10万対自殺者数(人)

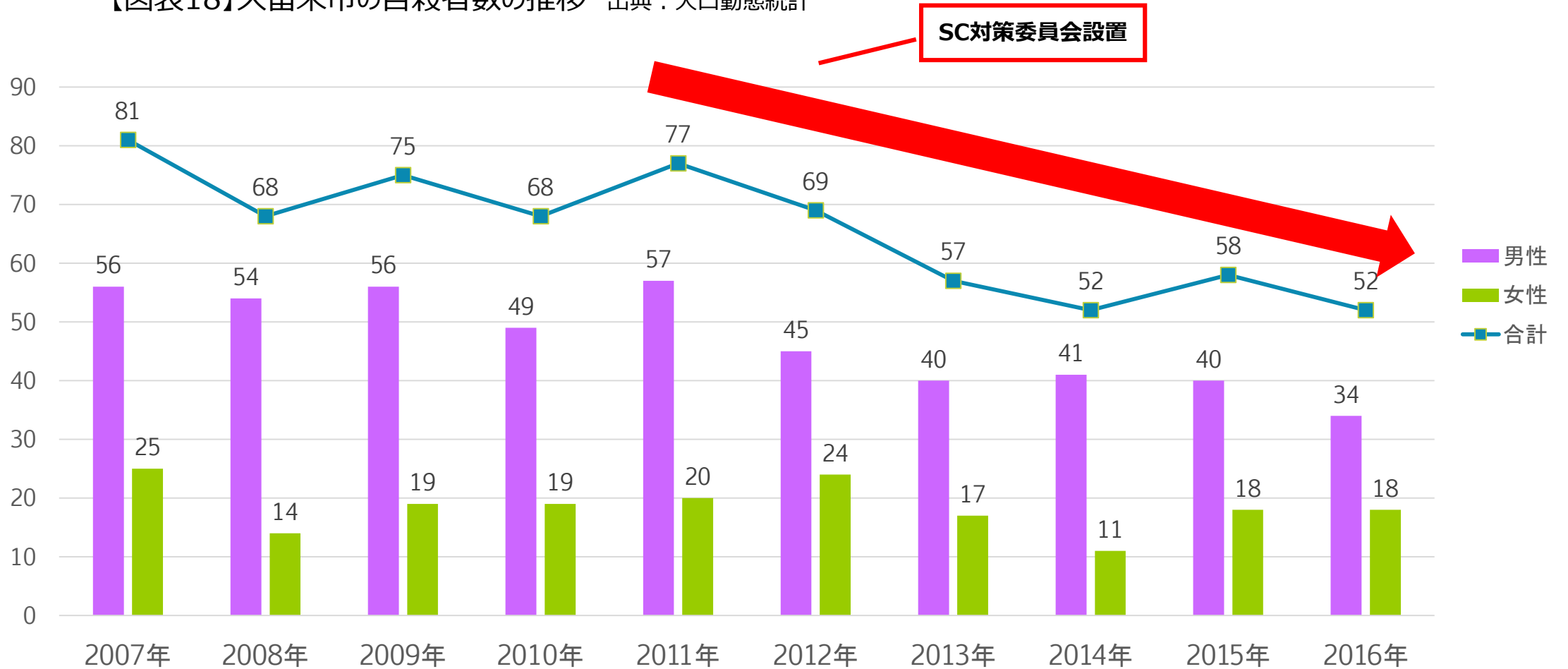
自殺死亡率の比較(久留米市・全国)



認定時の目標：自殺死亡率10%削減 2011年 25.4 ⇒ 2015年 18.9
26%削減で目標達成！！

10. 全体の成果

【図表18】久留米市の自殺者数の推移 出典：人口動態統計

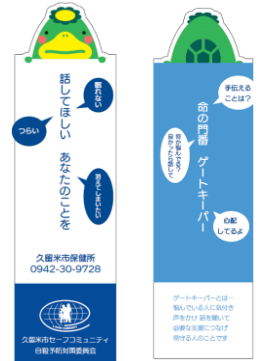


自殺者数は減少傾向で、対策委員会設置後は、50～60人台で推移

8. 2017年10月の事前指導での助言

1. 自殺が多い中高年男性へのアプローチ

一人でも気軽に行ける「書店」と連携した取り組みへ
対策委員で作成したしおりを配布



2. 「心の相談カフェ」開催場所の岩田屋社員への研修

顧客との距離が近いという久留米店の特長を活かし、
ゲートキーパー研修の実施を検討中

1.1. 認証取得後の変化

① かかりつけ医と精神科医の連携システムを中心とした全市的なネットワークの強化と拡大



② 地域におけるゲートキーパーの拡大

③ 様々な相談窓口の開設等による相談体制の強化



12. 今後の目標・課題

① 中高年男性の自殺者減少への取組

- ・ 自殺者数は減少しているが、依然として働き盛りの年代の自殺者数が多い

② 正しい知識を持つ市民の増加

- ・ 「うつや自殺」に対する不安を感じる人が少なく、また、中高年男性は悩みを抱え込む傾向がある。

③ 適切な医療や支援を受けられる体制の整備

- ・ 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い。

④ 地域の相談体制の更なる充実

- ・ 自殺の要因は複数あり複雑に絡み合っている。

<達成目標>

自殺死亡率
14% 減少

2015年→2020年

自殺のないまちをめざして

